

1 IRTカリキュラムの導入により、生徒たちはどのように変容したと思いますか。

(1) この2年間、指導してきた全般的な印象や実感を、話してください。

① 新しい学びの姿勢と意義

生徒たちはIRTに明らかにやりがいを感じている。この2年間、学校全体のカリキュラムの中にIRTが位置付けられ、責任をもって学習活動を展開している。授業中心の単調な学校生活の中で、この新しい学びが生徒たちの脳に刺激を与えて、学校生活を活性化する起爆剤になっている。

自らの興味ある科学者等についてグループで事前調査して、実際にインタビューして学んだことを文章やポスター・スライドに整理して発表するという一連の学習過程は初めてのことであり、緊張感をもって協働する場となっている。

② 外化する経験の意味

発表については、学級や学年、あるいは高校生や小学生、あるいは保護者に向けて、または外部の小学生や中学生に向けて発表する経験は、中学生の各学年の発達段階で、個人や集団としての成長を支える大きな力となっている。全員が主体的に学んで、全員が発表する場を持つというのは、貴重なことである。常に協働・協力して生き生きと楽しそうに活動している。

③ 問いを中心とした学び-育つ資質・能力

生徒たちは、「問いや問うこと」について集中的に学び、対応力や対話力、調査・分析する力、カリキュラムに即したタイムマネジメント(計画性)の力も身に付けている。最初は、時間がかかっていたが、学習過程とともに、短時間でまとめる力が身についている。ポスターの仕上がりも、去年よりも今年と、クオリティが高くなっている。ポスターを電子化したことにより、ICTの力も同時に身に付けている。

修学旅行の自主研修も、IRTの学びを生かしインタビュー活動を基軸として展開し、発表交流会も実施した。資質・能力の定着を図ることができた。

総じて、文理を超えた教科横断の力、いわゆる探究に必要な基礎力が身についている。

(2) 生徒たちがこの一連の学びで身に付けた資質・能力は、具体的にどんなものだと思いますか。以下の項目に沿って、教えてください。

① 思考力・判断力・表現力

表現力については、多くの発表の機会があったので、数をこなすことで高まった。

また、質疑応答等のリフレクションにより、ポスターを作り変えていく過程で、思考や判断が熟していったと思う。

② 書く力・話す力

書くことと話すことを中心としたカリキュラムなので、間違いなく高まった。

③ 聞く力・読む力

IRT は聞く活動であるとともに、相互の発表を聞きあうことが多いので、聞くこと力は、IRT を経験していないこれまでの生徒たちよりも、格段に高まった。

④ 協働する力

カリキュラムは 1 年間を通じてグループ活動なので、一つの目的をもって協働する力は存分に働き続けて、結果として身についた。

⑤ ポスター作成力

今年は、全ての班でポスターを電子化するとともに、パワーポイントを使用して発表したのので、総じて、探究活動をまとめる ICT に関するリテラシーが向上した。

⑥ 自分の志を持つ態度

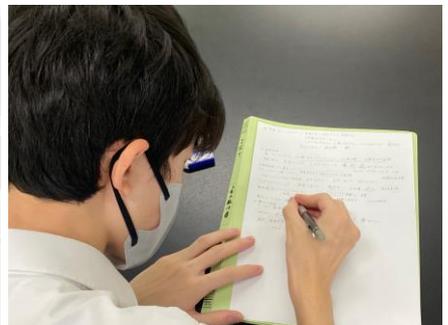
IRT は、自分の興味のある科学者や技術者、またはその他の職業人に焦点を当てて、調査・インタビュー・分析・まとめをしていくので、自分自身の夢について、必然的に向き合う場となっていく。仕事に誇りをもつ人の話を聞き、インスパイアされ、将来について考え出す生徒も多い。

⑦ 学習への影響

日常の教科の授業にも主体的に取り組む生徒が増えてきた。調査・研究・発表といった学習活動により、教科の学習への主体的に取り組む姿勢に対して大きな影響を与えている。



【IRT インタビューの様子】



【インタビュー 記録の様子】

(3) インタビュー活動を中軸とした一連のカリキュラムで生徒たちが成長するのは、どの段階だと思いますか。

成長の中身は生徒によって相違するが、発表の時に、その成長や変化が一番実感される。質疑の場面では、以前から考えられない筋道立てた返答に、「すごい」と思われる。

また、自己評価の場面でも成長は感じられる。特にたった一度しかないインタビューについて、リフレクションやポスター作成の段階で、もう少しこういう質問をすれば良かったという反省が仕切りであり、自分のした問いに対して、不十分さを感じて、悔しい思いを吐露する生徒が多い。

後日、メールなどで、質問ができれば、もっと良いポスターができる。

(山崎)担当の教諭の方から、メールで質問するのは可能だと思う。

また、インタビューを受ける方々が長く話し過ぎて、生徒たちのインタビューが少なくなるといったことも課題だと思う。そうしたことにならないようなシートを作成して、事前をお願いしたい。沈黙も生徒たちにとっては、良い勉強になる。

2 カリキュラムを進める上で、指導者として工夫した点を教えてください。

① 生徒たちが主体的に動くので、待つことが大切で、ほとんど工夫はしていない。

教師の仕事は、進捗状況を把握する進行管理だけだと思う。

② グループによって作業効率の差を合わせるために、声掛けやアドバイスをした。

これは案外難しいと思う。

③ 今年から、ポスター・スライド・文章等を含めて、全て電子化した。あまり指導をせずに、できるだけ生徒たちが工夫して進めるよう見守った。生徒たちはいろいろと聞いたり、読んだりして、協力して進めていた。

ただ、時間のかかる方法でポスターやスライドを作ったりする班には、積極的にアドバイスをした。

④ 電子化する過程で、生徒たちは ICT スキルが格段に向上した。ある意味で、実践的な情報の授業だと思った。IRT がないと、これだけのパソコンスキルを持った生徒たちを高校に送り出せない。SSH でもずいぶん役に立つのではないか。

3 カリキュラムの利点と課題は何だと思いますか。

利点 ① 本校にしかない中学校課題研究のカリキュラムで、段階的に必要なスキルが身につくカリキュラムとなっている。社会を生きる力を育成するものである。

② 高校の SSH ですぐに活躍できる即戦力となっている。

課題 ① インタビューの練習は、クラスの生徒同士では緊張感が続かないので、途中

から、日ごろ接点のない高校の先生方をお願いしたい。そうして難易度を少しずつあげていった方が良い。

4 高校に進んだ生徒たちにどのような変化がありましたか。

現在、SSH 活動で世界大会まで参加する高校 1 年生も複数いるが、IRT でまとめやプレゼン、ICT の基礎を身に付けていないと、すぐに SSH への移行ができなかったと思う。また、前に出ることのためらわないチャレンジする力も IRT で身に付けている。高校の SSH ですぐに活躍できる即戦力となっている。

5 本カリキュラムで、他に何があれば充実しますか。

高校ではどのような課題研究があるのかを中学生にも分かるようなアナウンスが必要である。発表は聞く機会があるが、理解が難しい点も多い。できれば高校生から直接分かりやすいアナウンスがあればモチベーションも上がると思う。

6 その他、何か付け加えることはありますか。

- ① 高校の SSH で全校体制が進められているが、中学校の IRT も全校体制が必要である。学年の先生方が共通理解して全て関わって、先生方の指導スキルをあげていくと、生徒たちも良いアドバイスが得られる。せっかくの良い取組であるので、SSH と同様に中学校としての役割分担が必要ではないかと考える。
- ② IRT のポスターやスライド作りは、タブレットよりパソコンの方がうまくいく。IRT 専用のパソコンを 8 台程度、購入していただくと、とても有難いです。



【インタビュー ポスター発表の様子】